

地域と協同の 研究センターNEWS

2018年3月25日発行
163号

【巻頭言】

女性と子どもの貧困公開研究会を開催して

3月、母校中学の同窓会報が届く。学校創立70周年記念式典での講演で「笑うことが生活に必要であり、病気を治したり勉強をはかどらせたりする効果があります。」が主旨のお話でしたとの記事。なるほど、家庭に笑い声があるのは大事なことだと思う…現在の日本では、17歳以下の子どもたちの7人に1人（調べ方により5人に1人）は貧困状態に陥っているという。30人学級であれば、同級生のうち4人は貧困状態にあることになる。…ふと同級の顔が頭をよぎる。

研究会で、しんぐるまざあずふおーらむの赤石千衣子氏は、ひとり親家庭の貧困解決には「男女が子どもを育てながら働ける社会システム（同一価値労働同一賃金）」や「充実した子育て教育費の支援」など社会制度の充実、また、個々のくらしのニーズに合わせられる「ファミリーサポート事業」の減免措置など喫緊に必要とされる制度改革が山積していると訴えられた。

このような逼迫した問題を抱える日本は世界の中ではどうか。名古屋大学の中嶋哲彦教授によれば、先進諸国の中で子どもの貧困率が平均21%に対し日本は18.2%もある。さらにこの具体的実態を見るために、ユニセフの研究機関により9つの指標から各国（41か国）が評価された結果、日本は「貧困の撲滅」は所得再分配制度が機能していないため、北欧の60%改善に対し日本は18%で23位、「ジェンダー不平等の削減」は、「大学教育は女性より男性にとって重要」と答えた人の割合が高いなどで32位等々、制度面でも意識面でも高くないことが伺えた。

一方でこれら社会問題は知っていても、日々の生活に追われ自分事として考え行動するに至らないという人もまた多い。地域でも生協でも、子ども食堂やフードバンク、居場所づくりなど様々な事業や活動が展開されている。それぞれは小さくても身近な地域で一步踏み出す、できることを持ち寄って緩やかなネットワークで広げていく、これらを続けることで大きな力になり社会を変えていく原動力になる。このことの大切さに一人ひとりが気づくことが、笑顔につながる。そのサポートに生協にどんなことができるのかを組合員と共に考えていきたい。

平光 佐知子（ひらみつ・さちこ）

生活協同組合コープあいち 副理事長、地域と協同の研究センター 理事

CONTENTS

- ▶巻頭言：女性と子どもの貧困公開研究会を開催して
平光 佐知子
- ▶第14回東海交流フォーラム報告
事務局
- ▶生協とくらし・平和・憲法について考える
寺本康美
- 情報クラブ
- 企画案内等「第37回春季研究大会のご案内」
※書籍紹介は「おやすみ」です

- 地域と協同の研究センター 3月の活動
- 1 3月2日（金）協同の未来塾⑨、研究フォーラム地域福祉世話人会
3月5日（月）岐阜地域懇談会世話人会
 - 2 3月9日（金）愛知の協同組合間協同相談会
3月10日（土）東海交流フォーラムまとめ会、第4回理事会
3月12日（月）市民講座検討会⑥、三河地域懇談会世話人会
3月15日（木）三重のプチフォーラム「三重県内の子ども食堂の活動報告」
 - 4 3月16日（金）組合員理事ゼミナール⑩
3月19日（月）研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会、尾張地域懇談会世話人会、「ビッグデータと社会・協同組合の近未来」学習会（鳥居弘志先生・名城大学経営学部）
 - 5
 - 8 3月23日（金）常任理事会⑩、寄付講義相談会
3月24日（土）第12回三河地域懇談会「豊橋生協会館に寄らまいかん」
3月30日（金）生協の未来の（あり方）研究会第71回

第 14 回東海交流フォーラム 「よいよい“くらし”をつくる 地域のつながり！」
～未来につなげるための あなたの身近な資源はなんですか？～

2月24日(土)、第14回東海交流フォーラムをコープあいち生協生活文化会館に於いて、80名の参加で開催しました。当日は、地域から4つの報告と小木曾洋司先生、向井清史先生からコメントがあり、8つのグループに分かれ分散交流会で感想を交流し合いました。今回はその内容の一部をご紹介します。(文責：事務局 大島)

地域からの報告①三河

三河地域懇談会の歩み「地域で粋な老い支度を」

世話人山口直子さん

私たちは、今まで活動してきた粋な老い支度の活動の集大成として、去年4月にコープあいちの豊橋生協会館にて、70名の参加で第11回三河地域懇談会「寄らまいかん」を開催しました。当日は、住み慣れた地域で健康にくらすために学び、頭も体も動かし、認知症予防になると言われるカレーやサラダ、コーヒー・ケーキも手作りされ、楽しい企画となりました。

三河地域懇談会の「地域を知る活動」

世話人八木憲一郎さん

三河の各地で会員の学習と懇談交流会を続けてきました。特にこの7～8年、地元・三河のことをもっとよく知り学ぼうと取り組んでまいりました。そんな活動の積み重ねのなかで「粋な老い支度」をテーマにした語り合いが広がり「寄らまいかん」につながってきました。そこには、地域や福祉の問題・課題や可能性を考えるテーマがいっぱい詰まっているように思います。昨年は、岡崎のまち歩きを楽しみました。

JA 愛知東女性部八名地区の取り組み「やなマルシェ」

前澤このみさん

この活動の中心になっているのはJA愛知東女性部八名(やな)の人たちです。八名地域は、新城市の南西部に位置します。伝統野菜「八名丸里芋」の産地でもあり、八名栗も栽培し、新城市の中では平なところ。圃場整備も早くすみ、大きな水田や畑もできています。

どんどん核家族化、少子化がすすみ、買い物をする場所、スーパーはAコープ八名店がたったひとつでした。その唯一のお店が昨年3月末で閉店することになりました。JAの女性部員で「これからどうしよう」とみんなで相談をしました。あのお店で何かしようとなり、自分たちできることを考え、朝市

(マルシェ)をやることになりました。お店がなくなったのだから、何か売ろう、ということで、地元の方に野菜を出してもらおうことにしました。閉店してか



前澤さん

ら一週間後、「朝市やりたいので、一緒にやってくれる人、集まってください」と集まってもらいました。

地域からの報告②三重

フードバンク活動から見てきた日本社会の課題

フードバンク多文化みえ代表 中村博俊さん

フードバンク多文

化みえを始めたきっかけは、1980年代の後半に、日本はバブル景気で人手不足が深刻化し、政府が入国法を改正し、海外の日系人の方、二世・三世の方は、日本で就労できるようにビザをとりやすくし、労働者として日本に受け入れることを始めました。その後、私は津のブラジル人学校の代表をしておりましたが、2008年のリーマンショックで失業する外国人が急増しました。セカンドハーベスト名古屋から物資をいただいて、生徒の親を中心に、まず食料を配り始めました。

今は、すでに外国人であるとか、日本人であるというような隔たりはなくなっています。非正規で働く人は外国人だけでなく、日本人も非常にたくさんいます。分け隔てなくやっています。彼らも日本人と一緒に日本に住み、住民として社会を支えている一緒の仲間だと理解してもらいたいと思います。

多文化共生ネットワークエスペランサの活動

多文化共生ネットワークエスペランサ

代表 青木幸さん

エスペランサというのは、リーマンショックの後の2009年3月に設立した市民グループです。生活が厳しい家庭への生活支援を行っています。2009年から現在までに197家族、のべ3500余りの支援を行ってきました。エスペランサはフードバンク他文化みえの登録団体の一つで、エスペランサが個人支援を行います。エスペランサは食料支援が中心に行っていますが、行った先で事情を聞くと、それで終わりにならない場合がほとんどです。だから公的支援につなげたり、ほかの生活物資を届けたりしています。設立のころのお話をさせていただきます。9月にリーマンショックが起こり、翌月の10月から影響が始めました。当時私は小学校に勤めていましたが、外国につながる子どもたちが、いうことばで「え～？」と思うことが増えてきました。



中村さん青木さん

コメント小木曾洋司さん (中京大学現代社会学部)

中京大学の小木曾と申します。みなさんに説明しておきたいのは、こういう活動が起きた社会的背景を私なりに考えたことがありますので、ご報告したいと思います。



小木曾さん

三河の活動や三重の活動は、たいへん大きな現代社会の変化に伴う現象だと考えます。歴史的な活動、現象なのかと思います。

地域からの報告③岐阜

若者の出番のある地域づくり

～子ども・若者支援の現場から見えているもの～

NPO 法人 仕事工房ポポロ (理事長)

一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク (共同代表)

一般社団法人よりそいネットワークぎふ (代表理事)

子ども・若者支援ネットワーク・ぎふ (共同呼びかけ人)

NPO 法人ぎふ NPO センター (副理事長) 中川健史さん

1993 年不登校の親の会を立ち上げ、その時に出し始めたニュースレターが 25 年になります。その後不登校の子どもたちのフリースペース居場所づくりをしてきました。不登校の子



中川さん

どもたちの問題に、関心をもっていたころ、90 年代の就職の氷河期時代に就職できなかった若者の問題と重なり合いました。2000 年代になって若者たちの問題とかかわるようになりました。2007 年今の「仕事工房ぽぽろ」をつくりました。子どもたちのフリースペースに毎月 7,000 円のお金を親御さんからいただいでいて、全然足らなくて、年間 100 万円近い寄付を市民から集めて居場所づくりをしてきました。稼げる仕事を作ろうよということで「仕事工房」という名前にしました。2010 年ごろから学習支援を岐阜県内で初めてスタートし、もう 10 年近く学習支援やっています。

地域からの報告④尾張

尾張地域懇談会の取り組み紹介世話人清水洋子さん

私たちの身近なところで資源があるのではないかとこのころで、2 月には「地域での支えあい交流会」を名東区を中心に開催しました。沢山の方に集まっただき、それぞれの取り組みや地域で支え合うにはどんなことができるのか、何が必要かなどを交流しました。

特定非営利活動法人たすけあいワーカーズ・コレクティブ愛・I 理事長加藤香代子さん

私たちは普通の家庭の主婦です。地域で困ったことがあったとき、自分でやりたいことを助け合いワ

ーカーズ・コレクティブという働き方で、みんなで一緒にやりたいという想いで立ち上げました。いろんなところでいろんな話を聞きながら、手さぐりで始めて今は会員 76 名で訪問介護



加藤さん

の事業所と居宅支援事業所、障がい者の訪問事業もやっています。名古屋市の委託を受けて、産前産後ヘルプとか、ひとり親支援もやっています。私たちは生活クラブ生協の組合員で、食を提供する生協ですが、その中で、生活全般でこんなことがあるのはおかしいと思ったことを、世の中を少しでも変えていこうという気持ちがあるということで、いわば社会問題に意識を持った活動をしています。こういう働き方、みんなが同じ立場、雇用関係がない、自分たちも運営に参加する、お金も出す、仕事も出すと言うかたちで、自分たちが運営の主体者です。昨年 4 月から名古屋の認知症カフェを始めました。ここで地域の中でのつながりがすすんでできてきました。

コメント向井清史さん (名古屋市立大学特任教授)

3 つのことを申し上げたいと思います。1 つは、資源、特に人間に内在する資源です。人的資源という言い方をします。



向井さん

2 番目は、資源の力は、協同することによって、連帯することによってより強くなるということです。3 つ目は、この 3 年間でもかなり急スピードで進んできたと思っています。バックキャストという考え方、最終ターゲットを 2030 年あるいは 2025 年に置くとするなら、遡り、今現在何をやらないといけないか考える。終着点を決めて、考える。これをバックキャストと言いますが、この間のフォーラムのテーマ、考え方の変化は決して速いわけではないと思います。我々は時間がないということだと思います。

当日のアンケートから参加者の感想

- ・「協同ということ」についてや「地域とのつながり」ということの大切さを感じました。若者がこれからどうあるべきなのか、困難を抱えている人に対してどのような支えをしていくことが出来るか考えていきたいと思いました。
- ・日本社会のひずみを感じた。こんなにも困窮者が多いことを初めて知ったのと同時に、一人ひとりの困窮者に寄り添って支援する団体があることに希望を感じた。

※詳しくは増刊「地域と協同」でご紹介いたします。お待ちください。

生協とくらし・平和・憲法について考える

寺本康美

コープあいち顧問・コープあいち九条の会世話人

3月3日に開催した「くらしと平和・憲法を語るつどい」は、直接的には「憲法九条改憲N O」を示す署名運動の推進とそれをすすめていく人たちとのつながりを広げることをめざし、実行委員会はこの趣旨に賛同するコープあいちや関係する人たち（組織、グループ等）で起ち上げた。このつどいの具体化に向けては、憲法について考える際に、その前提としてくらしや平和について現状や歴史的な経過などをふまえて考えることが大切だということ、そして生協関係者が中心のつどいであるから生協活動とくらし・平和について考えながらその根底にある憲法について語り合うこと、そしてそれらが「9条改憲N O」の署名運動を推進する力にもつながるようなつどいにしよう、と話し合ってきた。当日の参加者は37人（参加グループ・団体の数では14）で、相馬伸郎牧師からの「憲法とは神から与えられた基本的人権を保障するための最高法規」と題した講演とその後の参加メンバーからのリレートークでつどいの趣旨を深め合う貴重な話し合いができた。そして6月2日にはもうひとまわり、ふたまわりつながりを広げたつどいが持てるようしよう、と確認し合った。

生協は日本では今から100年ほど前に、日露戦争や第一次世界大戦などによる生活困窮や生命・健康の不安が蔓延する中で何とか自分のくらしと生命を守りたいとの意思を持った人々によって東京や神戸でつくられたが、その後の第二次世界大戦に向けて世の中が戦争一色に染められていく中で活動を休止したり解散させられたりして壊滅状態になった。しかし第二次世界大戦後のくらしの混乱・困窮の中で再び自主的・自発的にくらしと生命を守る生協づくりが全国各地で始まった。そうした運動の力になったのが1947年に施行された憲法であり、その憲法をもとにして消費生活協同組合法が1948年に制定された時も、その制定を促進する運動の中で柱として強調されてきたのは「生協を組織する根拠を憲法第25条の、健康で文化的な生活を営む国民の権利に求め、この権利の行使として国民は生協をつくることができる」ということであった。

そして1951年に日本生活協同組合連合会が設立されたが、その際にも、憲法の前文と第2章第9条で強調された「戦争の放棄」「平和主義」の理念を正面に据え、創立宣言の中では「第二次世界大戦の惨禍を自覚し、平和とよりよき生活こそ生活協同組合の理想であり、この理想の貫徹こそ現段階でわれわれに課せられた最大の使命である」と記し、同時に採択された「平和宣言」でも「平和の保証がなければ勤労大衆の生活権の擁護は絶対に達成されない。われわれは平和の決意を新たにするとともに生活協同組合運動を通じて世界平和と勤労大衆の生活擁護のために闘うことを誓うものである」と高らかに宣言した。

コープあいちにおいても創立期（旧めいきん生協、旧みかわ市民生協）からこの憲法と生協法、そして日本生協連の創立宣言、平和宣言で掲げられた理想と理念をバックボーンとした政策と方針を掲げて実践をすすめてきている。コープあいちの総代会議案書では、毎年その中に資料として憲法の条文を抜粋して掲載し、組合員とともにその理想・理念の共有化をはかっている。総代会議案書の紙面の都合で前文の一部と、第9条「戦争の放棄、軍備および交戦権の否認」、第13条「個人の尊重と公共の福祉」、第24条「家族生活における個人の尊厳と両性の平等」、第25条「生存権、国の生存権保障義務」、第96条「改正の手続き、その公布」、第99条「憲法尊重擁護の義務」だけの掲載になっているが、これらの条文は現憲法の最も大切な内容・理想をあらわすものであり、その意味を組合員とともに考えあうことの意義は大きい。

2月10日の中日新聞社説では政府や国会での憲法9条改正論議について以下のように述べているが同感である。「憲法は主権者たる国民が権力を律するためにある。改正しなければ国民に著しい不利益が生じる恐れがあり、国民から改正を求める意見が湧きあがる状況なら国会は堂々と改憲論議をすればよい。そうした状況でないにもかかわらず、権力の座にあるものが、やみくもに進めようとする改憲論議はあまりにも空疎である。

（てらもと・やすみ）

情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
<p>▶東日本大震災を 忘れない</p> <hr/> <p>NAVI 2018. 3 No. 792</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>特集 東日本大震災を忘れない 被災者に寄り添うコミュニティー形成・再生 <コープのある風景> コープながの <こんにちは！生協女子ですっ！> コープぐんま 金田ゆかりさん <地域に愛される店づくり・人づくり> トヨタ生協 メグリア エムパーク店 <今月のコープで笑顔がキラリ(最終回)> ララコープ <エッセイ わな猟師の春夏秋冬(最終回)> 千松信也 <宅配・現場レポート> エフコープ <生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品> CO・OP風味豊かな発酵バターのショートブレッド <日本全国ふだんのくらしを支えたい> 南医療生協 <想いをかたちにコープ商品> CO・OPビーフカレー <明日のくらし ささえあうCO・OP共済> 生協ひろしま <この人に聴きたい> コメディアン・俳優・粘土造形作家 片桐 仁さん <ほっとnavi> とくしま生協 鳥取県生協</p>	<p>2018 年 3 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶人口減と共働き社会に おける 組合員の組織と参加を 考える</p> <hr/> <p>生協運営資料 2018. 1 No. 299</p> <p>日本生活協同組合連合</p>	<p>●巻頭インタビュー わが生協、かくありたい！ 班を中心として共に歩んできた歴史を胸に 組合員の願いを実現する生協を目指す 生協共立社●代表理事 理事長 松本政裕氏</p> <p>特集 人口減と共働き社会における組合員の組織と参加を考える</p> <ol style="list-style-type: none"> 総代や理事の担い手が生まれた背景に あるおしゃべりの場とその運営の仕組みとは コープながの●代表理事 理事長 上田 均氏 総合企画室 次長 大島好恵氏 地域のために活動する外部の組織の支援と そのネットワーク化に組合員組織の活動をシフト ララコープ●会長 井出こずえ氏 副会長 川田美由紀氏 総合企画室 組合員活動部 統括マネージャー 尾崎健司氏 地域づくりを組織を挙げて行なう、そのための 環境づくりと人へのサポートは惜しまない 大阪いずみ市民生協●組合員活動部部长 野村泰史氏 人口減少と共働きが進む今こ そ参加のあり方を見直すべき 日本生協連●組織推進本部 本部長 二村睦子 組合員活動部 中村良光 <p>●これからの店舗事業のあり方を考える 第 11 回 店舗事業をリスタートしたコープしが。 素直に学び自ら考える職員を育て、さらなる飛躍を狙う コープしが●常務理事 小杉元彦氏 店舗事業部 運営管理担当 苗村貫司氏 コープかた店 店長 安岡寿司氏</p> <p>●全国生協の宅配事業・宅配センター運営を学ぶ 第 23 回 アプリファーストで利用シーンに溶け込んだ インターネット事業を目指すコープこうべ コープこうべ●インターネット事業部 インターネット事業推進 統括 浜地研一氏</p> <p>●短期連載 人づくりを考える 理念共有と風土改革へ～「ダントツ経営」を支える 理念の共有と組織風土改革 コマツ●顧問 日置政克氏</p>	<p>2018 年 1 月 B5 版 96 頁 定価 870 円</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p>月刊 J A</p> <p>2018. 3 vol. 757</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 スゴイ農業、スゴイ J A J A 自己改革の現場から</p> <p>I ターン農業者とともに産地を作る — J A 所お鹿児島県ピーマン専門部会の取り組み 和泉真理</p> <p>農政トピック J A グループの災害対策を考える 日本農業新聞農政経済部</p> <p>きずな春秋 — 協同のこころ— 竜門冬二 私のオピニオン 谷村結穂</p> <p>展望 J A の進むべき道 生産者・生産者団体が主役となるシステムに向けて 金井 健 (J A 全中常務理事)</p> <p>短期集中連載 ④ 世界から見れば、歴史から見れば ~食・農・暮らし・協同の本質との出会い~ 信州そばの今昔と海外発信 蔦谷栄一</p> <p>海外だより [D. C. 通信] 連載 82 アメリカの学校給食と連邦政府の関わり 吉澤龍一郎</p> <p>平成 28 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介 マスターコース生選抜賞 食と農を基軸とした活動で地域をつなげ 牧戸隆展 / J A 兵庫六甲 (兵庫県)</p>	<p>2018 年 3 月 A 4 判 44 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶大災害から “いのち・暮らし・ 人生”を守れ ~誰一人取り残さない</p> <hr/> <p>生活協同組合研究</p> <p>2018. 3 Vol. 506</p> <p>公益財団法人 生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言 CO・OP 共済のありたい姿 佐藤利昭</p> <p>▶特集 大災害から“いのち・暮らし・人生”を守れ~誰一人取り残さない</p> <p>南海トラフ巨大地震後の疎開シミュレーションと安全・安心な国土の形成 廣井 悠 平時と災害時の配慮を切れ目なくつなぐ — 排除のない防災へ— 立木茂雄</p> <p>災害とジェンダー — ひとりひとりが主体となる災害復興に向けて— 安部芳絵 被災者一人ひとりに向き合う支援制度へ 津久井進</p> <p>〈復興弱者〉に見る被災と復興の問題構造 — 「災害資本主義」と生協の社会的役割— 岩崎信彦</p> <p>コラム 1 災害時における地域連携・広域連携の事例 山田浩史、尾崎靖宏 コラム 2 熊本地震でのグリーンコープの活動と地区防災計画 西澤雅道 コラム 3 楽しくわかりやすく防災を学ぶ — 全労済の「ぼうさいカフェ」 小塚和行</p> <p>■研究と調査 志津川事情を語る⑤ 佐藤俊光・高橋源一 (聞き手・鈴木岳)</p> <p>生協組合員の放射性物質に対する意識や行動の調査 (第一報) 加藤朋江</p> <p>地震等大規模災害補償に対して生協共済ができること 大塚忠義</p> <p>英ウェールズの障がい者介護協同組合の状況 佐藤孝一</p> <p>■時々再録 防災スイッチの本当の意味 白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2018・1) 石井勇人・野村泰史</p> <p>●「生協と社会論」受講生募集</p> <p>● アジア生協協力基金 2018 年度助成事業計画決定のお知らせ</p>	<p>2018 年 3 月 92 頁 B5 判</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
▶ F T A 被害補填直接支払い	農協組合長インタビュー (45) 自己改革は組合員の意見を聞くことが大前提 厳しく複雑な価格交渉を乗り越えるために 石黒秀一 平成 30 年度薬価改定・薬価制度改革の概要と考察 佐治 実 二木教授の医療時評 (157) 日本のソーシャルワーク・社会福祉領域で常用されている 概念・用語に対する私の 3 つの疑問と意見 二木 立	2018 年 3 月 B5 判 72 頁 文化連報 編集部 03-3370-2529 *注
文化連情報 2018. 3 No. 480 日本文化厚生農業協同組合連合会	現代社会と協同組合 (最終回) 現在の日本の課題と協同組合の役割…農協・農村を中心に 北出俊昭 韓国農業の実相ー日本との比較を通じて (19) F T A 被害補填直接支払い 品川 優 臨床倫理メディエーション (21) 現在の医療をめぐる臨床倫理 (1) 中西淑美 受講生が主体の参加型の研修会 平成 30 年度厚生連院内感染予防対策研修会開催にあたって 仲川賢治 職種を超えた知識を得ることができました 平成 29 年度厚生連院内感染予防対策研修会を受講して 江田彩乃 全国統一献立 八丁味噌で食べる 愛知の「味噌カツ」 久留宮康恵 子ども食堂サミット 2018 ～子ども食堂パワーアップ計画～ 野の風 ● 「ネコにしあわせを」 久保美樹 デンマーク & 世界の地域居住 (106) NPO 法人むすび (練馬区光が丘団地) 松岡洋子 熱帯の自然誌 (24) 淡水漁業 安間繁樹 イギリスの社会的企業 地域再生と若者支援: SPACE 2 (3) 若者たちのサポート 小磯 明 フランスの訪問介護 (2) 開業看護師による訪問介護の実際 小磯 明 ◆第 44 回厚生連医薬品対策会議開催のお知らせ ◆平成 30 年度厚生連院内感染予防対策研修会開催のお知らせ □書籍紹介 誰の健康が優先されるのか 医療資源の倫理学 小磯 明 □書籍紹介 欧州医療制度改革から何を学ぶか 超高齢社会日本への示唆 小磯 明 ▶線路は続く (120) 今春廃止! 三江線/西出健史 ▶最近見た映画 花咲くころ/菅原育子	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。



日本協同組合学会

第37回春季研究大会のご案内

協同組合の歴史を遡れば、その多面的なルーツの一つとして、ドイツに代表される信用組合、我が国における信用事業など、貧困者（貧農）に対する協同組合による自助努力として、コミュニティを基礎とした「貧者の協同」による社会的連帯経済の試みとして大きな役割をはたして来ました。折しも、今年は協同組合金融の祖であるライファイゼンの生誕200年にあたり、大会では「ライファイゼンの実践・思想から学ぶ協同組合金融の精神」と題して、村岡範男氏（酪農学園大学名誉教授、元日本協同組合学会会長）の特別講演が企画されています。

期日 2018年5月12日（土） 10：00～17：30
 場所 日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会8階会議室
 （東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F）池袋東口（北）より徒歩6分

特別講演（午前の部）
ライファイゼンの実践・思想から学ぶ協同組合金融の精神
 講師：村岡範男（酪農学園大学名誉教授 元日本協同組合学会会長）

【会員総会】11：00～12：00

【昼食】12：00～13：00

大会シンポジウム（午後の部）

テーマ「協同組合と金融包摂」

座長解題 小関隆志（明治大学）

第1報告「協同組織金融と地域再生」長谷川勉（日本大学）

第2報告「協同組合銀行と金融包摂」重頭ユカリ（農林中金総合研究所）

第3報告「協同組織金融による困窮者支援」角崎洋平（日本福祉大学）

参加費 1,500円（非会員は2,000円）＊参加希望の方は下記事務局まで問合せ下さい

＜大会事務局＞協同総合研究所・相良孝雄

電話：03-6907-8033、090-4947-6980

メールアドレス：sgrtko@roukyou.gr.jp、kyodoken@jicr.org

地域と協同の研究センター 4月の活動予定		
4月5日（木）研究フォーラム食と農世話人会	4月18日（水）	研究フォーラム環境世話人会
4月9日（月）市民講座企画委員会準備会	4月19日（木）	名市大寄付講義②
NEWS編集委員会	4月20日（金）	三河地域懇談会世話人会
4月12日（木）名市大寄付講義①	4月21日（土）	第5回理事会
4月13日（金）愛知の協同組合間協同相談会	4月26日（木）	名市大寄付講義③
4月16日（月）常任理事会⑩、岐阜地域懇談会世話人会	4月27日（金）	尾張地域懇談会世話人会

地域と協同の研究センターNEWS163号

発行日2018年3月25日定価200円（税・送料込み）
 年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川幸城
 〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
 E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

※今月、書籍紹介はお休みとさせていただきます